

Simulation Game & Column

Si-phon Game Club

別冊

企画・制作
Si-phon 編集部

編集
谷村勝一郎

デザイン
大川内結衣

無断複製を禁ず



Si-phon

COMMAND
SIMULATION GAME • MILITARY HISTORY • STRATEGY • ANALYSIS

桶狭間の戦い

— Drive on Okehazama —

発売記念号

桶狭間の戦い
— Drive on Okehazama —

<http://si-phon.jp/koma/003/>

© 2014 Si-phon

ドライブ・オ・桶狭間

海道一の弓取りと尾張のウツケと呼ばれた男との対決



信長によって統一された尾張へ
武田・北条と同盟を結び
後顧の憂いが無くなった義元が
駿河・遠江・三河の兵で侵攻する
果たしてこの地の百年抗争に
終止符が打たれるのか



桶狭間の戦いの基本システム

このゲームは、両軍で異なるシステムを採用している。また両軍とも、敵味方の戦力が分からない状態でゲームが進む。合戦に参加したユニットが判明していくシステムだ。

各陣営は、各々が特徴を出しており、序盤で有利な今川軍、終盤で盛り返す織田軍という表現を取る。今川軍が一方的に有利でもなく、織田軍は奇襲を成功させないと負けるという訳でもない。

手番システムの踏襲

こまあぶで続けている手番システムは、今回も踏襲している。サイコロ

きる。

この奇襲コマンドにより、相手を包囲殲滅も可能であることから、義元を一気に討取る事も理論上できるが、ここで信長が討取られると、その場で負けとなるので注意が必要だ。

イベントと時間軸

こまあぶの特徴のひとつとして、手番決定時にサイコロの目が同数の場合、イベントが発生する。

イベントは、各々の陣営に有利になるものや、逆に不利になるものがある。今回は時間軸が進むと、今川軍の戦闘値が低下する場合がある事も追加された。なお勝利条件を満たすと、その場でゲームは終了する。

口の目の大きい方が手番を取り、同数であればイベントが発生する。

合戦では、サイコロの目に戦闘値を加算して大きい側が勝利、二倍以上の差があれば小さい側は消滅する。

合戦で勝利すると、相手を2ヘックス退却させられ、この時、退却できないユニットは消滅する。

今川軍の表現

今川軍は「移動」↓「合戦」若しくは「移動」↓「移動」という行動が取れる。この時「移動」を消費して「増援を得る事が可能だ。なお「移動」せずに「合戦」を行うと、そこ

で手番は終了する。また砦に侵入すると破壊行動が取れる。

今川方は、合戦で重要な戦力値が織田方より高いものの、時間軸が進むにつれ次第に低下していく。これは厭戦モードで戦意が低下する事を意味し、序盤から積極的に攻勢に出る必要性がある。

織田軍の表現

織田軍の行動は「移動」↓「合戦」のみである。また今川軍の「増援」に変わるものとして「奇襲」が存在し、信長ユニットを好きに登場させる事が可能だ。登場後も移動・合戦がで

ゲームの手順

手番決定

移動

織田軍は奇襲で信長の登場が可能

合戦

今川軍は合戦の代わりに移動可能

勝利判定

イベント一覧

勝利条件

織田軍

- 今川義元を除去
- タイムオーバー

今川軍

- 織田信長を除去
- 今川義元が上洛ポイントへ侵入
- 織田軍の4砦を全て破壊した場合



ダイス

イベント

イベント内容

1	海道一の弓取り	マップ上の今川全ユニットが行動可能。最初の攻撃のみ合算可能
2	今川軍の反撃	今川軍の手番
3	守兵の逆襲	織田軍の手番。守備兵は+1
4	尾張の大うつけ	信長以外の織田軍を1つ除去
5	弁当を使おうとる	今川全ユニットを1ヘクス移動
6~8	豪雨	織田軍の手番。信長は+1
9以上	ゲーム終了!	織田軍勝利

織田軍が勝利する為に

織田軍の勝利条件は二つある。まず今川義元を討取った場合、次にタイムオーバーとなった場合である。

この条件を満たした時点で勝利する。また終盤は今川軍の戦闘値が落ちるので、持久戦に有利と言える。

敗北条件

逆に敗北する条件はというと、信長ユニットが討取られた場合、全ての砦が破壊された場合、今川軍の義元ユニットが上洛ポイントへ到達した場合の三つである。

序盤は今川軍が有利だが、次第に戦力値が低下する為、戦術を駆使し、

持久戦に持ち込むと有利に展開できるだろう。

奇襲作戦

史実でそうであると言われていた様に、義元ユニットが判明したら、信長ユニットで奇襲を仕掛ける戦法は、非常に有効な手である。

合戦で見つかっていないなくても、全部で5つある今川ユニットの内4つが判明し、そこで見つかっていないのであれば、最後のひとつが義元である。こうした場合に手番が回ってきたならば、素早く奇襲を仕掛けるべきだろう。

部隊を移動させて防御線を張り、同時に一部のユニットで包囲戦を仕掛け、敵を殲滅していく。こうした敵のユニットを減らす戦法は有効な戦

法である。また戦闘の中で、もし義元を討取る事ができれば、その時点で勝利する。



織田軍勝利



織田軍はタイムオーバーで勝利する。兵糧が尽きた今川軍は撤退する。

織田軍大勝利



織田軍は史実と同じく敵の大将である今川義元を討ち取ると勝利する。

また、敵の有力ユニットを包囲できるのであれば、奇襲を仕掛けて包囲殲滅させる事も可能だ。

持久作戦

織田軍はタイムオーバーでも勝利する事から、持久戦に持ち込む事は正攻法である。

しかも時間軸が進むと、次第に今川軍の戦闘力も低下する為、合戦で有利になっていくのだ。

そうした持久戦に持ち込むにしても、序盤で自軍ユニット数を減らしてしまうと、勝利する事は難しくなる。そこで一部の砦を捨てる覚悟で、

今川軍が勝利する為に

今川軍の勝利条件は三つある。まず信長を討取る事、次に全ての砦を破壊する事、最後に義元が上洛ポイントへ到達する事である。

義元ユニットがどれであるかは、プレイヤーも分からない状態で開始される為、勝利条件の砦破壊と上洛との選択判断は、状況により切り替える必要があるだろう。

戦力の分散は避ける

今川軍は戦力を分散し、各個撃破されるのを避けるべきである。この中に義元がいると、その場で終了してしまうからだ。

逆に織田軍が分散しているのなら、確実に各個撃破していく方が有利に進められる。特に戦闘値の高いユニットが序盤で判明したならば、そのユニットで攻撃を続け、義元の場所を晒さない様に心がけるべきである。

勝利の基本は砦破壊

今川軍勝利の基本は砦破壊である。織田の戦力を分散させつつ、砦を破壊していく事が、織田方が最も嫌う行動だろう。

マップ上部の砦が上洛ポイントへ近いものの、敵が防御線を張ってきた場合、義元が包囲殲滅で討取られ

る可能性もある。よって、中央から分断していくのが有効な戦法だと言えるだろう。

上洛ポイントへの進入

今川軍は砦破壊を続ける途中、上

今川上洛



今川義元ユニットが上洛ポイントへ到達すると今川軍が勝利する。

洛での勝利の方が早いと判断できるのであれば、その場で行動を切り替えて良い。

但し、マップ上部に両軍のユニット

トが片寄ると、上洛ポイントに近付き難く、マップ下部の砦を破壊に向かう途中で、タイムオーバーが起これるので注意が必要だ。



尾張制圧



織田方の四つ全ての砦を破壊すると今川軍の勝利となる。

今川軍勝利



今川軍も敵の大将である織田信長を討ち取ると勝利する。



家督争いの拡散 南北朝時代から戦国時代へ

1333年、鎌倉幕府が滅亡。後醍醐天皇により建武の新政が開始されるものの、恩賞への不満から足利尊氏らが反発。南北朝に分かれて争う時代へ突入した。

尊氏は嫡子義詮を京に置いて将軍家とし、その弟を鎌倉に置き、鎌倉公方として両者は世襲された。

この時、両者を結ぶ東海道エリアには、有力な足利一門である斯波氏と今川氏が、守護として配置される事となった。

だが年月が経ち、世代が代わると将軍と公方は対立し、後継問題に口を出すなどする事から、互いに反目

なのだろうか。

鎌倉幕府を開いた源頼朝は、八幡太郎義家の父・頼義の功績を称えると共に、その正統な後継者であるとした。頼義・義家は、前九年・後三年の役で活躍している。

この義家の子に義国がいて、義国の子が足利の祖となった。よって鎌倉時代も家格も高く、執権であった北条氏も足利氏と姻戚を結び、両者は強く結ばれていた。鎌倉幕府滅亡後も、足利尊氏が武士の棟梁であったのは、こうした背景があったからである。

足利家の凋落

室町時代の守護は、鎌倉時代より裁量が強化された。北朝側の国衙領

していき、次第に両者の権威も落ちていく事となった。

こうした問題は足利家のみならず、全国の武士達の間で生じていた。家督争いから、勢力が弱体化していくのである。

南北朝時代が終焉した頃は、まだ幕府が積極的に家督問題に介入していた。むしろ介入する事で、有力守護の力を削いでいたのである。

だが、そうした介入が恨みを買い、将軍の暗殺事件なども発生し、応仁の乱を経て戦国時代へ突入した。それから百年ほど経った頃、桶狭間の戦いが発生する。

桶狭間と上洛説

桶狭間の戦いは、今川義元が上洛を目指して発生したものだ、よく言われる。上洛して足利将軍に代わり、天下を狙うという話である。

だがこの時、京には足利義輝が将軍として存在し、六角氏や足利一門の細川氏・畠山氏と共に、三好長慶と争っていた。

こうした状況下、天下を狙つての上洛とは考え難いと言えるだろう。

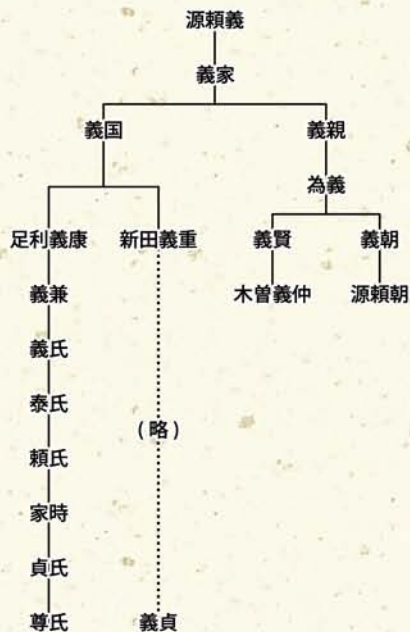
足利家とは

そもそも足利氏は、どういう一族

していった。

東西の足利家がこうして凋落してしまい、有力守護の力を削ぐ事ができなくなる事で、地方の有力者が力をつけ、成長していく過程が戦国時代の一面であると言える。

河内源氏 家系図



斯波氏と今川氏の百年抗争

室町幕府により、東海道には斯波氏と今川氏が配置された。この地は京と関東を結ぶ重要なエリアだ。

これ以前、源平時代に甲斐源氏が制圧した後、頼朝が取った。また秀吉の時代には、家康に関東と交換させる事で掌握した。秀吉死後の家康は素早く奪い返し幕府を開いた。そして幕末には新政府が東海道を制圧し、大政奉還へ導く。

こうした歴史的に重要なエリアで、斯波と今川の抗争が百年続いた。

斯波氏とは

足利氏興隆の基礎を気付いたのは、

斯波氏と織田氏の確執

尾張守護代の織田氏は、この遠江の抗争に反対し、守護の斯波氏との間に確執が生じていた。

そうした中、斯波氏でも家督問題が発生し、実権は織田氏へ移っていった。信長が登場するのは、こうした時期である。

信長の台頭

尾張では実権を握っていた織田信友が、守護職である斯波義統を殺害する事件が発生した。義統の子である義銀は織田分家の信長を頼り、その信長は信友を討った。

こうして信長の手で尾張は統一され、斯波氏は信長に庇護された。

鎌倉時代の四代泰氏である。

執権・北条氏と姻戚関係を持ち、家格の高さもあつた重要なポジションを担ったのである。

その長男が斯波氏の始まりとなる。そうした斯波氏は代々、一門の筆頭として足利宗家を支え続けてきた。

尊氏の挙兵にも最初から参加し、尊氏にも信頼されていた事もあり、尾張や越前の守護となっていた。

今川氏とは

足利泰氏の兄長氏が三河で吉良氏となる。よって斯波氏と共に一門の中で家格は高かったが、実権はあま

今川義元の西進

尾張勢を排除した今川氏は、再び遠江を掌握し、遠江の隣国である三河も勢力下に置いた。

三河の守護は、同じ吉良氏の流れである一色氏だったが凋落して、松平氏が台頭するが、今川と織田の侵入を受けていた。家康の人質はこの過程で生じたものである。

斯波氏との抗争開始から百年経っていたこの時、今川義元は武田信玄と北条氏康との同盟を結び、後顧の憂い無い状況にあった。こうして尾張侵攻が開始されるのである。

信玄上洛デジタルアプリ版

信玄上洛デジタルアプリ版でも、

りなかった。

その長氏の子が今川氏の祖となり、南北朝時代には今川了俊を輩出して活躍する。そうした今川氏は、駿河と遠江の守護となった。

遠江での抗争

まず今川家で家督問題が発生する。この時、幕府の意向から、遠江の半国を斯波氏が治める事になった。

その後、斯波氏が今川領へ侵入する事件が起こる。だがこれに怒った今川方に撃退された。こうして両氏の争いが生じ、応仁の乱へ引き継がれるのであった。

足利一門 家系図



この事をシナリオ化している。ここでは上洛説を取り、足利義輝と共闘して三好長慶にあたるというものだ。近江ルートで上京し、細川・六角勢と共にあたるか、紀伊ルートで畠山と共にあたるかというものである。將軍側である為、將軍側の国を切り取りできない縛りも入っている。

桶狭間バイアス 東日本を襲う大旋風

今川義元の討ち死には、東国の諸大名のベクトルを、大きく変化させる事となった。

それは武田が三国同盟を破る事で、勢力構造が変化した事と、三河で徳川家康が独立した事で、織田の勢力が西へ伸張できた事による。

武田の動向

今川義元の死後、武田は暫らく上杉との消耗戦を続けていた。今川領へ侵攻するのは八年後の事である。

この間、信玄は弟信繁と嫡男義信を失った。この両者の喪失は、後の武田家にとって大きなものだった。

た事だ。これに対して信長は、守護代の織田家の更に分家の出である。

信長からすると、足利家も斯波家も庇護しているのは信長であるから、朝倉も信長へ従いなさい、という立場であったろうが、朝倉からするとその話に乗る理由はなかった。

当然、両者は衝突し、織田と同盟を結んでいた北近江の浅井氏が、朝倉側に付いた事から、両者の対立は長期化する事となった。

桶狭間から30年

こうした流れで、北条との関係を修復した武田の西上作戦が開始された。この時こそが信長最大の危機であったが、その途上で信玄が没した事から、信長の息が吹き返す。

また三国同盟を破棄した事で、北条と敵対する事となるものの、最終的に北条とは和睦した。こうした経緯で、周辺勢力の織田、徳川、上杉、北条も各々の関係が目まぐるしく変化していく。

織田の動向

武田の動きによって、一番恩恵を受けたのは、実は織田信長である。

隣の三河で徳川家康が独立し、武田との関係も良好であった為、西へ勢力を拡大する事ができた。

こうして尾張・伊勢・美濃を手にし、南近江を攻め立てる事ができ

たのだ。南近江を掌握する事で、京への道も確保し、上洛できた。また楽市楽座の仕組みも、この時得られたと考えられている。

こうして上洛した信長の次の矛先は、越前の朝倉家へ向かった。

朝倉の動向

越前も尾張と同様、斯波氏が守護だった国である。織田氏も朝倉氏も元はその斯波家に仕える守護代の家系であった。

尾張との違いは、信長の時代、既に越前の守護は朝倉家であり、尾張の守護である斯波義銀と同格であつ

武田軍が引き上げた隙を突き、最初に朝倉を滅亡させ、次いで浅井も滅亡させる。

尾張・伊勢・美濃・近江・越前を掌握した信長は、京や堺など畿内の掌握を進め、最後の大敵となつてい

た上杉謙信が没した後は、武田も攻め滅ぼした。

こうして勢力図は大きな変化を続け、桶狭間で義元が討取られてから30年程経過した頃、秀吉によって統一された。

